

(様式1)

**令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立第五中学校**

**【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】**

**【学力向上に関する学校経営方針】**

ア 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、主体的に学習できる力を培うために、一人一人の学習における習熟の程度と課題を把握するとともに、個に応じた指導を行う。  
 イ 知識・技能の習得と、他者と協力・協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度、新たな価値を創造する力を育む。

具体的方策

- 学習習慣の確立   ○反復学習の定着   ○各種検定試験に挑戦できる能力の育成   ○読書教育の推進
- キャリア教育の推進   ○指導と評価の一体化の工夫

**【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容】**

【国語】都の正答率を4.1ポイント上回った。特に、「話す・聞く」の結果が良好である。一方、「書く」が他の観点に比べ定着していない。  
 【社会】都の正答率を1.2ポイント上回った。だが観点別に見ると技能の観点が都の平均を下回っている。  
 【数学】正答率において、都の平均を1.9ポイント上回った。一方で、知識・理解が1.9ポイント下回ったので定着していない。  
 【理科】全体の正答率は、都の平均を3.4ポイント上回った。特に、技能が4.3ポイント上回った。  
 【英語】都の正答率を教科の内容全体として2.9ポイント上回った。観点別にみると、外国語表現は+8.6ポイントと高いものの、知識・理解については0.4ポイント下回り、偏りが見られる。

**【授業改善の方針・目標】**

**【分かる授業・魅力ある授業の実践】**

- ・授業改善推進プラン、調布ベーシック・プラン、全国・都・市の学力調査、学習に関する意識アンケートを活用し、指導と評価の一体化を図る。
- ・各種調査等を踏まえて、指導内容の精選、指導過程や指導形態、評価方法等を工夫する。
- ・数学、英語による少人数学習集団において、生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導の充実を図る。さらに、東京方式で実施する指導について、短いスパンでPDCAサイクルにのせ、より効果的な授業を目指す。
- ・オリパラ教育に位置づけた国際理解教育の推進に向け、外国語教育の充実を図るとともに保健体育、家庭科においても主旨を踏まえ、授業の工夫改善を行う。
- ・各教科で、道徳教育の推進、人権教育の推進に配慮した指導を意図的に行う。

**【授業改善のための具体的な取組】**

**【短期的な改善策】**

- 【国語】長い文章や複雑な文章に対する抵抗感をなくすために、読みとるべき内容とその方法を明確に示して、読解スキルをあげていく。わかりやすい文章が書けるように、全体の構成を意識して文を書くことを定期的の実施していく。話し合い活動により、情報や知識を共有できる授業を展開する。
- 【社会】写真資料や統計資料から情報を読み取る問題を定期的に授業内で実施し、資料を活用する技能を養う。
- 【数学】基礎的な計算問題を繰り返し行うことで、技能を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を伸ばす。ペアワークや話し合い活動を授業に取り入れ、生徒が主体的・対話的に学びに向かう姿勢を養う。生徒の学力把握に努め、習熟度別少人数授業による指導に生かす。
- 【理科】小テストを繰り返すことで知識を定着させる。実験の操作を確認するパフォーマンステストや小テストを行うことで技能を定着させる。資料から情報を読み取る問題演習や、仮説を立て、実験結果から考察を行う機会を増やし、思考力を伸ばす。個人や実験班で課題を解決するための考える時間を多く取り入れる。
- 【英語】生徒の関心・意欲・態度を高めるための課題を設定し、ペアワーク、グループワークを積極的に行い、生徒が対話的に学ぶ活動を多く取り入れ、コミュニケーション力の向上を図る。年3回以上ALTとのインタビューテストや、スピーキングテスト、パフォーマンステストを行い、話す力を伸ばす。CAN-DOリストで「できるようになること」を明確に設定し、PDCAサイクルで授業を行う。音読筆写、ディクテーションを継続するとともに、英作文の添削、フィードバックを定期的の実施し、英語を書く力を伸ばす。基礎基本を定着させるために、定期的小テストを実施する。
- 【全教科】前時の振り返り、既習事項の確認(考える基礎となる知識の確認)  
 学習目標、課題の提示(ねらいの明確化)  
 「自分の考えを書く時間」の設定(自分で考え、自分の言葉で記述する時間を設ける)  
 「深める時間」の設定(学習の振り返り、1問1答、小テスト、本時のまとめを書かせる)

**【長期的な改善策】**

- 【国語】単元ごとの目標を達成するための手だてを工夫し、生徒自身がめあてを達成するための課題を意識できるようにする。また、めあてに沿って振り返りをさせ、定着と活用を促す。
- 【社会】振り返りの機会を積極的に設定し、生徒の知識の定着を促す。また、グループでの学び合いを復習や作業でも行いより多くの生徒が学習内容を身につけられるようにする。
- 【数学】生徒が思考・判断・表現の力を育成できるよう、発問や教材を工夫し授業を行う。主体的・対話的に学びに向かう姿勢を養うために話し合い活動を授業に取り入れ、「自力解決」から「グループ」での話し合い、「全体考察」につなげるなど、より深い学びを実現する。
- 【理科】論理的に考える力や身に付けた知識を利用して課題を解決する力を身に付けさせていく。また活動の中で生徒同士の協働の機会を設定し、自己の考えを広げ深める対話的な学習を行う。
- 【音楽】3年間をかけて、一人一人の自己表現する力を身につけさせていく。そのために効果的な教材を研究し工夫していく。
- 【美術】分かりやすい説明を心がけることで生徒の意欲を高めるとともに、発想構想を豊かにするための指導を充実させ、また表現の技能を発達段階に沿って指導していく。
- 【保健】生徒の実態に応じた授業実践を行い、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう指導を行う。また保健分野と体育分野を関連させた授業を展開していくことで、生徒が心と体を一体としてとらえ、健康を保持増進する力を育成していく。
- 【技家】技術：基礎的な知識の理解を徹底し、作業に生かす。また板書や掲示物を工夫し、視覚で作業内容が理解できるようにする。家庭：全ての領域で基礎的な知識の理解、技能の習得を図る。その上で実生活を意欲的に工夫するための適切な助言や技能指導を行う。
- 【英語】生徒の実態を把握しながら、発問や教材の見直しをし、関心・意欲・態度のポイントを上げるための工夫を行う。全ての学年で授業略案を作成し、授業者間の共通理解を図る。短期的な改善策を行いながら、生徒の実態を把握し、さらなる改善を図る。

**【取組の進行・管理、評価方法、時期】**

4月	学力向上に関する学校経営方針を踏まえ、本年度の研修内容を検討	12月	生徒教育活動及び授業評価アンケート(第2回)実施
5～7月	授業改善の方針・目標に沿って授業実践		生徒教育活動及び授業評価アンケートの検証、授業改善推進プランの修正
7月	生徒教育活動及び授業評価アンケート(第1回)実施	1～3月	授業実践
8月	生徒教育活動及び授業評価アンケートの検証、授業改善推進プランの作成	3月	授業改善推進プランの検証
9～12月	授業実践		評価基準を明確にした令和2年度教科の年間指導計画・評価計画の作成